(13) ハクサイ
ア 殺菌剤

農薬名	成分名	系統名	FRACコード	適用病害虫名										注意事項
				菌核病	黒斑細菌病	黒斑病	軟腐病	根こぶ病	白斑病	べと病				
アクティガード顆粒水和剤	ｱｼﾍﾞﾝｿﾞﾗﾙSﾒﾁﾙ	その他	P01		◎		◎							
アグリマイシン－１００	ｵｷｼﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ・ｽﾄﾚﾌﾟﾄﾏｲｼﾝ	混合剤	41・25		◎		◎							高温時または幼苗期には使用しない。
アグレプト水和剤 マイシン２０水和剤	ｽﾄﾚﾌﾟﾄﾏｲｼﾝ	抗生物質	25				◎							連用すると葉に薬害を生じる恐れがあるので，高温時の使用は注意する。
アタッキン水和剤	ｽﾄﾚﾌﾟﾄﾏｲｼﾝ・ﾁｵﾌｧﾈｰﾄﾒﾁﾙ	混合剤	25・1				◎		◎					連用すると葉に薬害を生じる恐れがあるので，高温時の使用は注意する。
アフェットフロアブル	ﾍﾟﾝﾁｵﾋﾟﾗﾄﾞ	ｱﾐﾄﾞ	7	◎		◎			◎					
アミスターオプティフロアブル	ｱｿﾞｷｼｽﾄﾛﾋﾞﾝ・TPN	混合剤	11・M05			◎			◎	◎				
アミスター２０フロアブル	ｱｿﾞｷｼｽﾄﾛﾋﾞﾝ	ｽﾄﾛﾋﾞﾙﾘﾝ	11			◎			◎	◎				黄芯系品種では薬害の恐れがあるので，使用にあたっては注意する。
エトフィンフロアブル	ｴﾀﾎﾞｷｻﾑ	ｱﾐﾄﾞ	22					◎		◎				
オーソサイド水和剤８０	ｷｬﾌﾟﾀﾝ	その他	M04			◎			◎	◎				
オラクル顆粒水和剤	ｱﾐｽﾙﾌﾞﾛﾑ	その他	21					◎						
オラクル粉剤	ｱﾐｽﾙﾌﾞﾛﾑ	その他	21					◎						
オリゼメート顆粒水和剤	ﾌﾟﾛﾍﾞﾅｿﾞｰﾙ	その他	P02		◎									
オルフィンフロアブル	ﾌﾙｵﾋﾟﾗﾑ	その他	7			◎			◎					
オロンディスウルトラＳＣ	ｵｷｻﾁｱﾋﾟﾌﾟﾛﾘﾝ・ﾏﾝｼﾞﾌﾟﾛﾊﾟﾐﾄﾞ	混合剤	49・40							◎				
カセット水和剤	ｵｷｿﾘﾆｯｸ酸・ｶｽｶﾞﾏｲｼ	混合剤	31・24		◎		◎							
カンパネラ水和剤 ベネセット水和剤	ﾍﾞﾝﾁｱﾊﾞﾘｶﾙﾌﾞｲｿﾌﾟﾛﾋﾟﾙ・ﾏﾝｾﾞﾌﾞ	混合剤	40・M03							◎				
キノンドー水和剤４０	有機銅	有機銅	M01				◎							
キノンドーフロアブル	有機銅	有機銅	M01				◎							
コサイド３０００	水酸化第二銅	無機殺菌	M01				野							野:【野菜類登録】
ザンプロＤＭフロアブル	ｱﾒﾄｸﾄﾗｼﾞﾝ・ｼﾞﾒﾄﾓﾙﾌ	混合剤	45・40							◎				
シグナムＷＤＧ	ﾋﾟﾗｸﾛｽﾄﾛﾋﾞﾝ・ﾎﾞｽｶﾘﾄﾞ	混合剤	11・7	◎		◎			◎	◎				
シトラーノフロアブル	有機銅・TPN	混合剤	M01・M05				◎		◎	◎				
ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤	ﾏﾝｾﾞﾌﾞ	有機硫黄	M03			◎			◎	◎				
ジャストフィットフロアブル	ﾌﾙｵﾋﾟｺﾘﾄﾞ・ﾍﾞﾝﾁｱﾊﾞﾘｶﾙﾌﾞｲｿﾌﾟﾛﾋﾟﾙ	混合剤	43・40							◎				
スクレアフロアブル	ﾏﾝﾃﾞｽﾄﾛﾋﾞﾝ	ｽﾄﾛﾋﾞﾙﾘﾝ	11	◎										
スターナ水和剤	ｵｷｿﾘﾆｯｸ酸	その他	31		◎		◎							
ストロビーフロアブル	ｸﾚｿｷｼﾑﾒﾁﾙ	ｽﾄﾛﾋﾞﾙﾘﾝ	11			◎			◎	◎				黄芯系品種では薬害の恐れがあるので，使用にあたっては注意する。
ソターールＷＤＧ	ｵｷｿﾘﾆｯｸ酸・ﾄﾙｸﾛﾎｽﾒﾁﾙ	混合剤	31・14				◎							

農薬名	成分名	系統名	FRACコード	適用病害虫名										注意事項
				菌核病	黒斑細菌病	黒斑病	軟腐病	根こぶ病	白斑病	べと病				
ダコニール１０００	TPN	その他	M05			◎			◎	◎				
ダコレート水和剤	ﾍﾞﾉﾐﾙ・TPN	混合剤	1・M05	◎		◎				◎				
テレオ水和剤	ｵｷｿﾘﾆｯｸ酸・塩基性塩化銅	混合剤	31・M01				◎							
ドイツボルドーA	塩基性塩化銅	無機殺菌	M01				野			野				野:【野菜類登録】
トップジンM水和剤	ﾁｵﾌｧﾈｰﾄﾒﾁﾙ	ﾍﾞﾝｿﾞｲﾐﾀﾞｿﾞｰﾙ	1	◎					◎					
ナレート水和剤	ｵｷｿﾘﾆｯｸ酸・有機銅	混合剤	31・M01			◎	◎		◎	◎				
ネクスターフロアブル	ｲｿﾋﾟﾗｻﾞﾑ	その他	7			◎			◎					
ネビジン粉剤 ネビライト粉剤	ﾌﾙｽﾙﾌｧﾐﾄﾞ	土壌殺菌	36					◎						
ネビリュウ	ﾌﾙｽﾙﾌｧﾐﾄﾞ	土壌殺菌	36					◎						
バリダシン液剤５	ﾊﾞﾘﾀﾞﾏｲｼﾝ	抗生物質	U18		◎		◎							
パレード２０フロアブル	ﾋﾟﾗｼﾞﾌﾙﾐﾄﾞ	その他	7	◎		◎			◎					
ピシロックフロアブル	ﾋﾟｶﾙﾌﾞﾄﾗｿﾞｸｽ	その他	U17							◎				
ファンタジスタ顆粒水和剤	ﾋﾟﾘﾍﾞﾝｶﾙﾌﾞ	その他	11	◎		◎			◎					
フォリオゴールド	ﾒﾀﾗｷｼﾙM・TPN	混合剤	4・M05							◎				
フジドーLフロアブル	塩基性硫酸銅	有機銅	M01				◎							
フロンサイドSC	ﾌﾙｱｼﾞﾅﾑ	その他	29				◎	◎						
フロンサイド粉剤	ﾌﾙｱｼﾞﾅﾑ	その他	29					◎						
プロポーズ顆粒水和剤	ﾍﾞﾝﾁｱﾊﾞﾘｶﾙﾌﾞｲｿﾌﾟﾛﾋﾟﾙ・TPN	混合剤	40・M05			◎			◎	◎				
ベジセイバー	ﾍﾟﾝﾁｵﾋﾟﾗﾄﾞ・TPN	混合剤	7・M05	◎		◎			◎	◎				
ベンレート水和剤	ﾍﾞﾉﾐﾙ	ﾍﾞﾝｿﾞｲﾐﾀﾞｿﾞｰﾙ	1	◎					◎					
ホライズンドライフロアブル	ｼﾓｷｻﾆﾙ・ﾌｧﾓｷｻﾄﾞﾝ	混合剤	27・11							◎				黄芯系品種では薬害の恐れがあるので，使用にあたっては注意する。
マスタピース水和剤	ｼｭｰﾄﾞﾓﾅｽ ﾛﾃﾞｼｱ	生物農薬	NC		◎		◎							
マテリーナ水和剤	ｵｷｿﾘﾆｯｸ酸・ｽﾄﾚﾌﾟﾄﾏｲｼﾝ	混合剤	31・25				◎							
メジャーフロアブル	ﾋﾟｺｷｼｽﾄﾛﾋﾞﾝ	ｽﾄﾛﾋﾞﾙﾘﾝ	11			◎			◎	◎				幼苗期に散布すると薬害を生じる場合があるので、使用を避ける。
ヨネポン水和剤	ﾉﾆﾙﾌｪﾉｰﾙｽﾙﾎﾝ酸銅	有機銅	M01				◎			◎				
ライメイフロアブル	ｱﾐｽﾙﾌﾞﾛﾑ	その他	21							◎				
ランマンフロアブル	ｼｱｿﾞﾌｧﾐﾄﾞ	その他	21					◎		◎				
リドミルゴールドMZ	ﾏﾝｾﾞﾌﾞ・ﾒﾀﾗｷｼﾙM	混合剤	M03・4							◎				
レーバスフロアブル	ﾏﾝｼﾞﾌﾟﾛﾊﾟﾐﾄﾞ	ｱﾐﾄﾞ	40							◎				
ロブラール水和剤	ｲﾌﾟﾛｼﾞｵﾝ	ｼﾞｶﾙﾎﾞｷｼｲﾐﾄﾞ	2	◎		◎			◎					
Zボルドー	塩基性硫酸銅	無機殺菌	M01		野		野			野				野:【野菜類登録】

(13) ハクサイ
イ　殺虫剤

農薬名	成分名	系統名	IRACコード	適用病害虫名													注意事項
				コオロギ類	アブラムシ類	コナガ	ハイマダラノメイガ	タマナギンウワバ	ネキリムシ類	オオタバコガ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	アオムシ	キスジノミハムシ	カブラハバチ類	ネコブセンチュウ類	
アクセルフロアブル	ﾒﾀﾌﾙﾐｿﾞﾝ	その他	22B			◎	◎				◎	◎	◎	◎	◎		
アクセルベイト	ﾒﾀﾌﾙﾐｿﾞﾝ	その他	22B	◎					◎			◎					
アクタラ顆粒水溶剤	ﾁｱﾒﾄｷｻﾑ	ﾈｵﾆｺﾁﾉｲﾄﾞ	4A		◎												
アクタラ粒剤５	ﾁｱﾒﾄｷｻﾑ	ﾈｵﾆｺﾁﾉｲﾄﾞ	4A		◎	◎							◎				
アグロスリン水和剤	ｼﾍﾟﾙﾒﾄﾘﾝ	ﾋﾟﾚｽﾛｲﾄﾞ	3A		◎	◎					◎	◎	◎				
アディオン乳剤	ﾍﾟﾙﾒﾄﾘﾝ	ﾋﾟﾚｽﾛｲﾄﾞ	3A		◎	◎					◎		◎				
アドマイヤー顆粒水和剤	ｲﾐﾀﾞｸﾛﾌﾟﾘﾄﾞ	ﾈｵﾆｺﾁﾉｲﾄﾞ	4A		◎												
アドマイヤーフロアブル	ｲﾐﾀﾞｸﾛﾌﾟﾘﾄﾞ	ﾈｵﾆｺﾁﾉｲﾄﾞ	4A		◎												
アニキ乳剤	ﾚﾋﾟﾒｸﾁﾝ	ﾏｸﾛﾗｲﾄﾞ	6			◎	◎			◎		◎	◎	◎	◎		
アファーム乳剤	ｴﾏﾒｸﾁﾝ安息香酸塩	ﾏｸﾛﾗｲﾄﾞ	6			◎					◎		◎				
アベイル粒剤	ｱｾﾀﾐﾌﾟﾘﾄﾞ・ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ	混合剤	4A・28		◎	◎	◎						◎				
アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ	ﾈｵﾆｺﾁﾉｲﾄﾞ	4A		◎									◎			
アルバリン粒剤 スタークル粒剤	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ	ﾈｵﾆｺﾁﾉｲﾄﾞ	4A		◎	◎	◎						◎				
ウララＤＦ	ﾌﾛﾆｶﾐﾄﾞ	その他	29		◎												
エルサン乳剤	PAP	有機ﾘﾝ	1B		◎	◎	◎				◎	◎	◎	◎	幼		幼:【幼虫に適用】
オルトラン水和剤	ｱｾﾌｪｰﾄ	有機ﾘﾝ	1B		◎	◎					◎	◎	◎		◎		
カスケード乳剤	ﾌﾙﾌｪﾉｸｽﾛﾝ	IGR	15			◎					◎		◎				
カルホス粉剤	ｲｿｷｻﾁｵﾝ	有機ﾘﾝ	1B						◎								
カルホス微粒剤Ｆ	ｲｿｷｻﾁｵﾝ	有機ﾘﾝ	1B						◎								
キックオフ顆粒水和剤	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ・ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ	混合剤	28・4A		◎	◎	◎				◎		◎				
グリーンベイト	ﾒﾀｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ・NAC	混合剤	1A	◎													
グレーシア乳剤	ﾌﾙｷｻﾒﾀﾐﾄﾞ	その他	30			◎	◎			◎	◎	◎	◎				
コテツフロアブル	ｸﾛﾙﾌｪﾅﾋﾟﾙ	その他	13			◎					◎		◎		◎		
コナガコン	ﾀﾞｲｱﾓﾙｱ	ﾌｪﾛﾓﾝ				◎				◎							【作物指定なし】
コルト顆粒水和剤	ﾋﾟﾘﾌﾙｷﾅｿﾞﾝ	その他	9B		◎												
コンフューザーＶ	ｱﾙﾐｹﾞﾙｱ・ｳﾜﾊﾞﾙｱ・ﾀﾞｲｱﾓﾙｱ・ﾋﾞｰﾄｱｰﾐﾙｱ・ﾘﾄﾙｱ	ﾌｪﾛﾓﾝ				野		野		野	野	野					野:【野菜類登録，ﾖﾄｳﾑｼはﾖﾄｳﾑｼ,ｼﾛｲﾁﾓｼﾞﾖﾄｳで適用】コンフューザーＶは適当な長さの支柱に４本取り付け，圃場全体に配置し，取り付け位置は地上50～60cmとする。
サブリナフロアブル	BT	生物農薬	11A			◎					◎		◎				
ジュリボフロアブル	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ・ﾁｱﾒﾄｷｻﾑ	混合剤	28・4A		◎	◎	◎				◎	◎		◎	◎		

農薬名	成分名	系統名	IRACコード	適用病害虫名													注意事項
				コオロギ類	アブラムシ類	コナガ	ハイマダラノメイガ	タマナギンウワバ	ネキリムシ類	オオタバコガ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	アオムシ	キスジノミハムシ	カブラハバチ類	ネコブセンチュウ類	
スピノエース顆粒水和剤	ｽﾋﾟﾉｻﾄﾞ	ｽﾋﾟﾉｼﾝ	5			◎	◎				◎		◎		◎		
ダントツ水溶剤	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝ	ﾈｵﾆｺﾁﾉｲﾄﾞ	4A		◎	◎							◎				
ダントツ粒剤	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝ	ﾈｵﾆｺﾁﾉｲﾄﾞ	4A		◎	◎	◎		◎				◎				
チューンアップ顆粒水和剤	BT	生物農薬	11A			野	野			野	野		野				野:【野菜類登録】
ディアナSC	ｽﾋﾟﾈﾄﾗﾑ	ｽﾋﾟﾉｼﾝ	5			◎	◎			◎	◎	◎	◎				
デナポン5%ベイト	NAC	ｶｰﾊﾞﾒｰﾄ	1A	◎					◎			◎					
トアロー水和剤CT	BT	生物農薬	11A			野					野		野				野:【野菜類登録】
トランスフォームフロアブル	ｽﾙﾎｷｻﾌﾛﾙ	その他	4C		◎												
トルネードエースDF	ｲﾝﾄﾞｷｻｶﾙﾌﾞ	その他	22A			◎	◎				◎		◎		◎		
トレボン乳剤	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ	ﾋﾟﾚｽﾛｲﾄﾞ	3A		◎	◎					◎		◎				
ネキリエースK	ｲｿｷｻﾁｵﾝ	有機ﾘﾝ	1B	◎					◎								
ネマキック粒剤	ｲﾐｼｱﾎｽ	殺線虫	1B													◎	
ノーモルト乳剤	ﾃﾌﾙﾍﾞﾝｽﾞﾛﾝ	IGR	15			◎		◎			◎		◎				
ハクサップ水和剤	ﾌｪﾝﾊﾞﾚﾚｰﾄ・ﾏﾗｿﾝ	混合剤	3A・1B		◎	◎		◎		◎	◎	◎	◎		◎		
バシレックス水和剤	BT	生物農薬	11A			野		野			野	野	野				野:【野菜類登録】
パダンSG水溶剤	ｶﾙﾀｯﾌﾟ	ﾈﾗｲｽﾄｷｼﾝ	14		◎	◎							◎		◎		
ハチハチ乳剤	ﾄﾙﾌｪﾝﾋﾟﾗﾄﾞ	その他	21A		◎	◎	◎						◎				
ハチハチフロアブル	ﾄﾙﾌｪﾝﾋﾟﾗﾄﾞ	その他	21A		◎	◎	◎						◎	◎			幼苗期には薬害を生じる恐れがあるので使用を避ける
ファインセーブフロアブル	ﾌﾛﾒﾄｷﾝ	その他	34			◎							◎				
フェニックス顆粒水和剤	ﾌﾙﾍﾞﾝｼﾞｱﾐﾄﾞ	ｼﾞｱﾐﾄﾞ	28			◎				◎	◎	◎	◎				
フォース粒剤	ﾃﾌﾙﾄﾘﾝ	ﾋﾟﾚｽﾛｲﾄﾞ	3A						◎								
プリロッソ粒剤	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ	ｼﾞｱﾐﾄﾞ	28		◎	◎	◎						◎				
プレオフロアブル	ﾋﾟﾘﾀﾞﾘﾙ	その他	UN			◎				◎	◎		◎				
プレバソンフロアブル5	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ	ｼﾞｱﾐﾄﾞ	28			◎	◎				◎	◎	◎		◎		
プレバソン粒剤	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ	ｼﾞｱﾐﾄﾞ	28			◎	◎						◎				
フローバックDF	BT	生物農薬	11A			野	◎			野	野	野	野				野:【野菜類登録】
ブロフレアSC	ﾌﾞﾛﾌﾗﾆﾄﾞ	その他	30			◎	◎			◎	◎	◎	◎				
ベネビアOD	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ	ｼﾞｱﾐﾄﾞ	28		◎	◎	◎				◎	◎	◎	◎			1．ｽﾄﾛﾋﾞﾙﾘﾝ系薬剤を含む農薬および銅剤との混用はしない。 2．展着剤は加用しない。
ベリマークSC	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ	ｼﾞｱﾐﾄﾞ	28		◎	◎	◎					◎	◎		◎		
マッチ乳剤	ﾙﾌｪﾇﾛﾝ	IGR	15			◎							◎				
マトリックフロアブル	ｸﾛﾏﾌｪﾉｼﾞﾄﾞ	IGR	18								◎						
マブリック水和剤20	ﾌﾙﾊﾞﾘﾈｰﾄ	ﾋﾟﾚｽﾛｲﾄﾞ	3A		◎	◎		◎			◎		◎				
マラソン乳剤	ﾏﾗｿﾝ	有機ﾘﾝ	1B		◎								◎		◎		

農薬名	成分名	系統名	IRACコード	適用病害虫名													注意事項
				コオロギ類	アブラムシ類	コナガ	ハイマダラノメイガ	タマナギンウワバ	ネキリムシ類	オオタバコガ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	アオムシ	キスジノミハムシ	カブラハバチ類	ネコブセンチュウ類	
ミネクトデュオ粒剤	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ・ﾁｱﾒﾄｷｻﾑ	混合剤	28・4A		◎	◎	◎						◎	◎	◎		
モスピラン顆粒水溶剤	ｱｾﾀﾐﾌﾟﾘﾄﾞ	ﾈｵﾆｺﾁﾉｲﾄﾞ	4A		◎	◎							◎		◎		
モスピラン粒剤	ｱｾﾀﾐﾌﾟﾘﾄﾞ	ﾈｵﾆｺﾁﾉｲﾄﾞ	4A		◎	◎	◎						◎				
モベントフロアブル	ｽﾋﾟﾛﾃﾄﾗﾏﾄ	その他	23		◎												
ヨーバルフロアブル	ﾃﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ	ｼﾞｱﾐﾄﾞ	28		◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎				
リーフガード顆粒水和剤	ﾁｵｼｸﾗﾑ	ﾈﾗｲｽﾄｷｼﾝ	14		◎	◎	◎						◎				
ロムダンフロアブル	ﾃﾌﾞﾌｪﾉｼﾞﾄﾞ	IGR	18									◎					

(13) ハクサイ
ウ　土壌消毒剤

農薬名	成分名	RACコード I:殺虫 F:殺菌	適用病害虫名														注意事項
			ケラ	ネキリムシ類	ハリガネムシ類	コガネムシ類幼虫	センチュウ類	ネグサレセンチュウ類	ネコブセンチュウ類	青枯病	萎黄病	黄化病	立枯病	軟腐病	根くびれ病	根こぶ病	
ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤	ﾀﾞｿﾞﾒｯﾄ	I:8F							◎			◎			◎	◎	
キルパー	ｶｰﾊﾞﾑﾅﾄﾘｳﾑ塩	I:8F										◎			◎	◎	
クロールピクリン	ｸﾛﾛﾋﾟｸﾘﾝ	I:8B										◎		◎	◎		
クロピク80 ドジョウピクリン ドロクロール	ｸﾛﾛﾋﾟｸﾘﾝ	I:8B										◎		◎	◎		
クロルピクリン錠剤	ｸﾛﾛﾋﾟｸﾘﾝ	I:8B										◎					
ソイリーン	ｸﾛﾛﾋﾟｸﾘﾝ・D-D	I:8B・8A						◎	◎			◎			◎		
ダブルストッパー	ｸﾛﾛﾋﾟｸﾘﾝ・D-D	I:8B・8A						◎	◎								
ディ・トラペックス油剤	ﾒﾁﾙｲｿﾁｵｼｱﾈｰﾄ・D-D	I:8F・8A					◎				◎	◎				◎	
テロン DC油剤 D-D	D-D	I:8A				◎		◎	◎								
NCS	ｶｰﾊﾞﾑ	I:8F										◎				◎	

注）苗立枯病の対象病原菌の表記　P：*Pythium*　，　R：*Rhizoctonia*

(13) ハクサイ
エ　残渣処理剤

農　薬　名	成　分　名	ＩＲＡＣ コード	使用目的	注　意　事　項
キルパー	ｶｰﾊﾞﾑﾅﾄﾘｳﾑ塩	8F	前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止	使用目的以外での使用不可
			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死	
			前作の野菜類又は花き類・観葉植物のアザミウマ類蔓延防止	
			前作のきゅうりのコナジラミ類蔓延防止	
			前作のイチゴのネグサレセンチュウ蔓延防止	
			前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネコブセンチュウ蔓延防止	
			前作のナスのフザリウム立枯病の蔓延防止	
			前作のねぎの収穫残渣に寄生したクロバネキノコバエ類蔓延防止	
			前作のキュウリの褐斑病の蔓延防止	

オ　病害虫防除法（ハクサイ）

（ア）菌核病　*Sclerotinia sclerotiorum*

（防除のねらい）

早春から５月頃にかけて，生育後期に発生が多く，気温が20℃前後で曇雨天が続いたときに発生しやすい。土中の菌核が第１次伝染源となるので，ほ場内に菌核を増やさないことが大切である。また，好気性菌であり，空気の多い土壌の表層でしか生存しない。

（耕種的防除法）

（１）発病株は早めに取り除き，収穫後に残った茎葉も取り除く。
（２）常発地では連作を控え，ナタネやレタス，インゲンなど本病が発生しやすい作物の輪作を避ける。
（３）作付前に天地返しを行い，地表の菌核を土中深く埋め込む。

（イ）黒斑細菌病　*Pseudomonas syringae* pv.*maculicola*

（防除のねらい）

病原細菌は主として種子，土壌中の罹病残渣内で越冬し，風雨などによって地上部分に飛散する。気孔，水孔から侵入するが，害虫の食害痕等により容易に侵入できるため，キスジノミハムシ等害虫防除に努める。ほとんど年中発生するが，春秋に多いため注意する。耕種的防除を主体とする。

（耕種的防除法）

（１）発生地では連作を避け，２年以上他作物の間作を行う。
（２）早播きを避ける。
（３）肥料切れしないように適正な肥培管理を行う。

（ウ）黒斑病　*Alternaria brassicae*，*A. brassicicola*，*A. japonica*

（防除のねらい）

種子伝染をする。早まきや肥料切れした場合に多発の傾向があるので，肥料切れさせないように注意する。

（耕種的防除法）

（１）健全な種子を使用する。
（２）耐病性品種を選択する。
（３）完熟堆肥を充分施し，保肥力の高い膨軟な土作りを行う。
（４）適正な施肥を行う。

（エ）軟腐病　*Erwinia carotovora* subsp.*carotovora*

（防除のねらい）

多犯性病害で土壌伝染する。ウイルス罹病株や害虫の食害痕は本病の発生を助長するので対策を講ずる。薬剤防除は８葉期～結球初期まで予防防除を行う。高温時ほど発生が多い。

（耕種的防除法）

（１）連作を避け，イネ科，マメ科作物を輪作する。
（２）耐病性品種を選択する。
（３）早播きを避け，排水対策を講ずる。
（４）土壌を他に落とさないよう留意して，被害株をほ場外に除去する。

（化学的防除法の注意事項）

（１）発病してからの防除は困難なので予防散布の徹底に努める。
（２）高温・長雨による多湿条件等，発生に好適な場合は周辺ほ場の様子も注意しながら防除が遅れないよう留意する。
（３）前年度発生があった場合は菌密度が増加している可能性が高いため，特に注意する。

（オ）根こぶ病　*Plasmodiophora brassicae*

（防除のねらい）

土壌伝染し，酸性土壌に発生しやすいので，まず発生させないことを念頭に土壌酸度の矯正に努める。また，発生した場合は初期の薬剤防除を徹底し，ほ場内に絶対に罹病残渣を残さず，嫌気状態での蒸し込み等，適正に処理する。

（耕種的防除法）

（１）ほ場の出入口付近の生育が思わしくない株を引き抜き等，根こぶ症状の早期発見に努め，罹病株は処分する。

（２）発病を見たら，トラクター，管理機械等に付着した土壌は洗い落とし，病菌拡散を防ぐ。

（３）石灰等の施用により，土壌pH7.0以上にする。

（４）発病地では連作を行わず，少なくとも５年程度，アブラナ科以外の作物を栽培する。

（５）アブラナ科雑草の適切な処分を行う。

（カ）白斑病　*Pseudocercosporella capsellae*（*Cercosporella brassicae*）

（防除のねらい）

晩秋から初冬にかけて雨の多い年に発生が多く，酸性土壌，早播き，連作，肥料切れは発生を助長する。病菌は罹病葉の組織内で菌糸で越冬し，伝染源となるので収穫時の罹病葉処理が大切である。

（耕種的防除法）

（１）耐病性品種を選択する。

（２）秋作では早播きを避け，肥料切れしないように適正な肥培管理を行う。

（３）罹病葉の処分を行う。

（キ）べと病　*Peronospora parasitica*

（防除のねらい）

晩秋及び春季の低温多湿条件および通風不良で発生が多い。被害葉が伝染源となるのでほ場に残さないようにする。

（耕種的防除法）

（１）薄播きや早期間引き等で通風・採光を良くする。

（２）罹病株，残渣をほ場に残さない。

（ク）モザイク病・えそモザイク病　TuMV，CMV

（防除のねらい）

モザイク病はカブモザイクウイルス(TuMV)とキュウリモザイクウイルス(CMV)により引き起こされ，えそモザイク病は TuMV が病原ウイルスである。いずれもアブラムシにより媒介される。発病してからの治療法はないため，媒介虫となるアブラムシの防除・飛来防止策が必要である。また，発病株の抜き取り等，発病初期の伝染防止対策に留意する。

（耕種的防除法）

（１）秋作では早まきを避ける。

（２）寒冷紗や防虫網で被覆栽培するか，シルバーマルチ等を行う。

（３）抵抗性品種を利用する。

（４）播種量を増やし，罹病株は早期に間引く。

（ケ）アブラムシ類

（防除のねらい）

加害するアブラムシにはモモアカアブラムシ，ニセダイコンアブラムシ，ダイコンアブラムシの３種がある。アブラムシ類は吸汁害だけでなく、ウイルス病を媒介するので，防除は発芽初期から有翅成虫を対象に行う。降雨が少なく高温乾燥のときは，特に注意する。

（耕種的防除法）

シルバーマルチ，シルバーストライプマルチを使用する。

（コ）コナガ

（防除のねらい）

キャベツの項参照。

（サ）ハイマダラノメイガ（シンクイムシ）

（防除のねらい）

薬剤散布は発芽期から生育初期に行う。また，夏季が高温少雨で残暑の厳しい年には多発するので注意する。

（シ）タマナギンウワバ

（防除のねらい）

発生は晩夏～秋にかけて目立ち，幼虫は下葉を好んで加害するので，下葉を重点に防除する。

（ス）ネキリムシ類

（防除のねらい）

野菜の連作ほ場や，雑草地のあと地に播種すると発生しやすい。ほ場を裸地にしておけば，その後の発生は予防できる。

（耕種的防除法）

（１）被害株近くの土中の幼虫を捕殺する。

（２）播種前にほ場を耕起して除草する。

（セ）オオタバコガ

（防除のねらい）

９～10月に発生が多く見られ，夏季の高温，乾燥条件下で多発傾向にある。防除はふ化直後の幼虫を対象に行う。薬剤散布は，花の中にも薬液が十分かかるようにする。

（ソ）ヨトウムシ（ヨトウガ）

（防除のねらい）

春（４～５月）と秋（10～11月）に発生する。薬剤は老齢幼虫に対して効果が劣るので，防除は発生初期（白い食痕が見え始める頃）に行う。

（タ）ハスモンヨトウ

（防除のねらい）

ハスモンヨトウが増加する９月以降に結球するものは，老齢幼虫が内部に食入し，薬剤の効果があがりにくいので，防除は若齢期に重点を置く。サトイモ，大豆等では比較的早くから発生を認めるので，これらの作物の発生を参考とする。

（チ）アオムシ（モンシロチョウ）

（防除のねらい）

キャベツの項参照。

（ツ）キスジノミハムシ

（防除のねらい）

発生は高温期に播種する作型で多い。成虫は子葉と本葉を，幼虫は根部を食害する。幼苗期の加害は被害が大きいので，防除は播種時～生育初期に徹底する。なお，軟腐病の発生も助長する。

（テ）カブラハバチ

（防除のねらい）

アブラナ科の野菜や雑草を食害する。発生は５～６月と10～11月頃に多い。

（ト）コオロギ類

（防除のねらい）

コオロギ類はほ場周辺の雑草地に多く，ウリ類の跡作地で被害が多くなるので，ほ場衛生に留意する。降雨が少ない年には被害が多いので，防除は播種前から計画的に行う。

（耕種的防除法）

（１）ほ場周辺の除草を行う。

（２）ウリ類などの跡作では敷きわらを積み，コオロギ類を集めて焼却する。